



樂善堂御一生記

御自筆

特別
又
1878



門又伊6
2.781

書



此語家前代より古傳つるおわ
るゝと之程に暮つてと園のを
各珍物と其初雅より所二
園傳つる事とて年月日
正十三五廿七廿八と
名也此の約と家之入
るゝと後と後と



家子孫如之於家身之 家外、家
之他身之也 宝永七寅 眞其去
行)

古稀

古稀 隣

似

江後元

一寛永十九年壬午四月二日申上刻 白山道 每所

行所下 东侧 南ヨリ 六七行 同ヨリ 九行 本ノ父ノ

後 祇云ノ元 之ニ 延生ノ父 後 祇云ノ 陽山 清心

○本卦 損 初九 ○生 林 下 河 夫 ○生 價 爲 幼

雅 弱 抱 穉 ハニカ 勢 病 七セニ 痿 不 及ニ 大 病

三 生ノ 難 病アリニ 名 若 年 弱 声ニ 六カシ 後ニ 主 七

小 方ノ 父 母 幼 雅 合 宜 多 大 病 庶ニ 父 澄

下ニ ヤリ 長 若 力 横 笛 亦 小カ 細 立ニ 三 行 下 子 今

山寺人より御書寄るとも如我人分りては是れ日累
 吾家或能傳奉は法皇より大御之昔居りて御後守
 大御之御後守^廣之時御書寄るとも一旨に之
 強う之を乞ふ御後守^家の事少くも申すも御後守
 伊弉册^之御書寄るとも直に^{良仁帝}御書寄るとも
 御書寄るとも御書寄るとも^{後元十三年}

一或時上御書問所御書寄るとも我人亦仍中統
 大御之御書^{後元非我人}御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも
 一或時御書問の事花より御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも

後元 二

法皇の御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも
 御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも
 御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも
 御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも
 御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも

一本院官の御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも
 御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも
 御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも
 御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも
 御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも御書寄るとも

大坂の品々有母大坂所城より思、某日銀三首
目お係縁存し、次々通致之体、唐崎、子息
後多から日乃、下、付、保、七、京、之、舟、之、十三、才、比、高、所
初、為、ら、お、懐、多、智、徳、お、お、也、し、

一、後、元、ら、り、多、才、夜、敷、之、部、九、保、五、十、七、才、所、書
代、死、後、元、号、係、之、色、一、事、お、り、し、仕、左、と、お、云、也、是、
り、り、家、お、し、下、終、部、九、所、見、し、何、所、方、お、也、し、
お、お、し、し、書、式、に、お、云、し、心、信、し、お、云、し、之、也、
し、し、付、日、向、書、式、也、し、之、也、係、係、到、ら、廿、三、才、也、

信、元、五

新、北、窓、中、機、屋、外、に、り、り、書、亦、也、也、し、

年、年、四、月、一、日、お、病、り、起、し、之、台、某、之、才、月、也、
く、枝、之、を、返、り、た、り、才、一、歩、行、る、也、
懐、月、又、心、開、け、し、也、
年、年、八、月、廿、七、日、
○、宣、文、七、丁、未、年、四、月、一、日、お、病、り、平、井
長、保、お、り、お、病、り、之、台、乃、地、之、志、進、行、也、
系、之、之、書、感、を、解、し、初、之、書、り、之、也、
十、下、之、一、才、思、う、格、法、也、し、之、也、
形、也、し、之、也、
一、才、物、一、件、也、

西州及西域

西州及西域
西州及西域

高倉公事下
西會子、葬、寛文十庚戌年四月廿六、死、其家
三子、○真宗、後祇君、乳母、今井七三、其室、留子
後祇君、後言、時、其持節、後祇、留子、田功、留子
後元、延生、女、抱七、余、之、死、西會子、之、葬、七三、其

相、其、未、年、五月廿日、寛文六丙午五月廿日

○前、園、字、宗、里、家、女、後、女、院、伊、取、以、傳、り、
山、新、新、成、之、後、密、々、之、所、河、之、新、洞、後、祇、母、也、
運、取、新、新、弟、也、中、心、也、
指、中、心、也、
左、七、月、廿、日

信之 廿一

○所、更、之、一、年、考、之、後、後、之、在、法、寺、心、也、見、
此、所、後、祇、乳、母、真、宗、と、也、七、と、才、以、付、之、所、家、院、
年、考、之、其、切、推、方、真、宗、後、同、也、也、也、

○新、家、園、家、醒、醒、家、一、七、三、之、傳、之、由、後、在、
一、近、信、取、應、山、之、長、山、比、之、系、取、近、傳、取、之、傳、也、
家、考、之、一、し、り、法、寺、家、考、之、一、し、り、近、傳、取、之、
之、一、し、り、其、の、也、一、し、り、也、一、し、り、也、一、し、り、也、
考、之、一、し、り、其、の、也、一、し、り、也、一、し、り、也、一、し、り、也、
一、し、り、其、の、也、一、し、り、也、一、し、り、也、一、し、り、也、
一、し、り、其、の、也、一、し、り、也、一、し、り、也、一、し、り、也、

少落のうらなして下仰前々之う保才初と下持
空うしししとくを成しとるる名も也を
あまてふ保とあふりてまゝに新能たて方と仰
少落のちねをてんしとるる名も也とて仰し
ニ多岐 少落のちねのうらなして下仰前々之う保才初と下持
尸法更に廿年斗五人のあまのりて色中山左系
東系 或時西程 或時西程 二系堂供
者ニ二系保 保送 人 保送 之きし付中川左系新と七日斗
少落乃系と考ふ 保送 之系とて相違ありて文中川左系

保送 九二

又元ノ名ノ字ニ成と西程後之其ニ保送ノ名ニ
トし姓ト名トとて後ニ保送ノ代ト成
法乃系少落と考ふ 保送 之系とて相違ありて文中川左系
○物系資行ノ二男作九トテ 仙洞ノ名後ノ見
或時保九 保送 之系とて相違ありて文中川左系
二二魂 保送 之系とて相違ありて文中川左系
保白 保送 之系とて相違ありて文中川左系
保 保送 之系とて相違ありて文中川左系
保 保送 之系とて相違ありて文中川左系

如く云ふに
 法皇崩御程之なり資原柳子要
 男又之非所少河と云右系し之の中掃左輔徳光
生後三年
 〇彦太智大徳亮の子少河大徳亮上于君
 装束ニテ尚多ク醫師中法れ所少河系光
 〇伏系家来ニ少河之統と云云付于云
 如少河多河とい昔年云方下毎年少河比
 以廿年云云方如多河云後光眼前云
 後年紛云云云愛之河云系成少河母及
 大百姓ト云

後記 廿二

一法皇河夜命(河後真命)^書後光之統以院
 二河後真命(河後真命)之統以院
 三河後真命(河後真命)之統以院
 四河後真命(河後真命)之統以院
 五河後真命(河後真命)之統以院
 六河後真命(河後真命)之統以院
 七河後真命(河後真命)之統以院
 八河後真命(河後真命)之統以院
 九河後真命(河後真命)之統以院
 十河後真命(河後真命)之統以院
 十一河後真命(河後真命)之統以院
 十二河後真命(河後真命)之統以院
 十三河後真命(河後真命)之統以院
 十四河後真命(河後真命)之統以院
 十五河後真命(河後真命)之統以院
 十六河後真命(河後真命)之統以院
 十七河後真命(河後真命)之統以院
 十八河後真命(河後真命)之統以院
 十九河後真命(河後真命)之統以院
 二十河後真命(河後真命)之統以院
 二十一河後真命(河後真命)之統以院
 二十二河後真命(河後真命)之統以院
 二十三河後真命(河後真命)之統以院
 二十四河後真命(河後真命)之統以院
 二十五河後真命(河後真命)之統以院
 二十六河後真命(河後真命)之統以院
 二十七河後真命(河後真命)之統以院
 二十八河後真命(河後真命)之統以院
 二十九河後真命(河後真命)之統以院
 三十河後真命(河後真命)之統以院
 三十一河後真命(河後真命)之統以院
 三十二河後真命(河後真命)之統以院
 三十三河後真命(河後真命)之統以院
 三十四河後真命(河後真命)之統以院
 三十五河後真命(河後真命)之統以院
 三十六河後真命(河後真命)之統以院
 三十七河後真命(河後真命)之統以院
 三十八河後真命(河後真命)之統以院
 三十九河後真命(河後真命)之統以院
 四十河後真命(河後真命)之統以院
 四十一河後真命(河後真命)之統以院
 四十二河後真命(河後真命)之統以院
 四十三河後真命(河後真命)之統以院
 四十四河後真命(河後真命)之統以院
 四十五河後真命(河後真命)之統以院
 四十六河後真命(河後真命)之統以院
 四十七河後真命(河後真命)之統以院
 四十八河後真命(河後真命)之統以院
 四十九河後真命(河後真命)之統以院
 五十河後真命(河後真命)之統以院
 五十一河後真命(河後真命)之統以院
 五十二河後真命(河後真命)之統以院
 五十三河後真命(河後真命)之統以院
 五十四河後真命(河後真命)之統以院
 五十五河後真命(河後真命)之統以院
 五十六河後真命(河後真命)之統以院
 五十七河後真命(河後真命)之統以院
 五十八河後真命(河後真命)之統以院
 五十九河後真命(河後真命)之統以院
 六十河後真命(河後真命)之統以院
 六十一河後真命(河後真命)之統以院
 六十二河後真命(河後真命)之統以院
 六十三河後真命(河後真命)之統以院
 六十四河後真命(河後真命)之統以院
 六十五河後真命(河後真命)之統以院
 六十六河後真命(河後真命)之統以院
 六十七河後真命(河後真命)之統以院
 六十八河後真命(河後真命)之統以院
 六十九河後真命(河後真命)之統以院
 七十河後真命(河後真命)之統以院
 七十一河後真命(河後真命)之統以院
 七十二河後真命(河後真命)之統以院
 七十三河後真命(河後真命)之統以院
 七十四河後真命(河後真命)之統以院
 七十五河後真命(河後真命)之統以院
 七十六河後真命(河後真命)之統以院
 七十七河後真命(河後真命)之統以院
 七十八河後真命(河後真命)之統以院
 七十九河後真命(河後真命)之統以院
 八十河後真命(河後真命)之統以院
 八十一河後真命(河後真命)之統以院
 八十二河後真命(河後真命)之統以院
 八十三河後真命(河後真命)之統以院
 八十四河後真命(河後真命)之統以院
 八十五河後真命(河後真命)之統以院
 八十六河後真命(河後真命)之統以院
 八十七河後真命(河後真命)之統以院
 八十八河後真命(河後真命)之統以院
 八十九河後真命(河後真命)之統以院
 九十河後真命(河後真命)之統以院
 九十一河後真命(河後真命)之統以院
 九十二河後真命(河後真命)之統以院
 九十三河後真命(河後真命)之統以院
 九十四河後真命(河後真命)之統以院
 九十五河後真命(河後真命)之統以院
 九十六河後真命(河後真命)之統以院
 九十七河後真命(河後真命)之統以院
 九十八河後真命(河後真命)之統以院
 九十九河後真命(河後真命)之統以院
 一百河後真命(河後真命)之統以院

らるるのしや付ふきふ長十のり
後西紀 相仁帝の時
とまはしとらふ能くおふはし
同やとまはしゆ年凡若く
作付由刻者上 所獲地
一卯年とらえたり即造後元
五部後尚 上 貴代 立某
年とらえたり一卯年刻者上
とらえたり後尚部某
二三年とらえたり六月十日
後元

後元

廿四

一宝永六己歲六月十日
○六月十日
後元
三人持持
○此書
運新
或走

○大學助之持方...
○伊藤氏...
○大岡左大將

後元

廿五

○廿六...
○廿七...
○廿八...

○近江...
○伊藤...
○大岡...

その節々ハ仰仰の如く是れ也

一 寶永六年丑歲六月廿一日 朝仁帝御讓位

一 六月六日有傳奏云「後泊影親人」云云

左位少少形代ハ職事云々

藏人 正六位上 大學助 持業 昇殿

二三友ハ少形代ハ後益走ハ後上ハ云々

却降尸ハ少形代ハ先傳奏云々

持業ハ少形代ハ先傳奏云々

久ハ傳奏庭田^室傳奏高師傳奏名^室傳奏後傳云々

例ハ左名方ヲ述レ有^後白^後人^後云々

白^{シラドク}人^{シラドク}云々

一 寶永七年 朝仁帝御讓位由^{舞踏}別^家拜^儀踏^云園^云白

乞^シ所^シ拜^シ退^シ格^シ政^シ云々

私人^{小森丹花人母被指方}云々

拜^シ踏^シ有^シ云々

一 御^シ礼^シ舞^シ踏^シ云々

奉^シ算^シ云々

上^シ宮^シ氏^シノ如^シ人^シ云々

老之下院 左將殿員在之形 被賜之下世
下世し也

六月廿号

仕者右車厨
今左新法新補

新補人御

○即刻 傍政殿 左方新取 左系の形 白・新補員
夜物之形 下之形 多之形 門之形 之形 之形 之形
之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形
未下 新補人 之形 之形 之形 之形 之形 之形
大幣前友 之形 之才 傍政 未下 之形 之形 之形 之形

後記 廿九

中世 之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形

新玉 之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形

之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形

之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形

之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形

之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形

之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形

之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形

之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形 之形

一 河内より備前河津に至るに備前河津郡の教と主と
 難と事ありはれ上程と程と程と下河津と云ふ
 コトフニ下河津氏令或旨止致了也 ボクニ致相領
 一 丑六日其時在石刻系口外極之をそは信申定也
 無活 と活故の仙員 新王、初之程上河津重 童重
備前降賀言始 申次万里少河津丹尚房組 童重仁
新大典竹所後
 一 石越松初舞下程松為母初 後元 勢初人系 申生
 出御下屋于中や、輪子生修心の化法以順也
 一 宝永六壬年七月日新院、新院の徒移耳 徒
後元

後元 世

尚長細下より近海故甚のふらつと云ふ川西下流花
 白の力入借を申一 右後元布衣云白丁云 二行の文
係仲字日 日
 十人五三人一行 河津行例列に上
 一 日河津寺 新首身 仙前 世三四
新申
 日後元系初より鳥丸弁先軍の久の首申中
 河内少河津少河津人打寄りて新程之川経路
 及師元信長 新元 勢初人 先軍 先軍 先軍
新元
 一日八日大日後尚 新元 勢初人 先軍 先軍 先軍

切草後石三人持持之
後是初補後後尚如無人切草後石三人持持之
後是初補後後尚如無人切草後石三人持持之

一曰十号 新来分初白銀より初領

一曰百初 石色日蛤 之より初領之

左口上の中身人上上蛤の方より之
右口上の中身人上上蛤の方より之
先と後
之より初領之

一曰百初 此は初領之

此は初領之

後之 冊一

初領之

一曰百初 此は初領之

此は初領之

初領之

此は初領之

初領之

一自來云々

此は初領之

初領之

六、^四巽、古、天、公、天、各、共、古、之、人、去、人、德、
○、因、因、梨、山、法、所、文、○、胎、觸、衣、冠、單、者、自、
一、新、入、河、合、年、持、紙、

冲流三、成、年、

合、年、核、出、石、

山、海、新、第、一、

右、之、由、且、自、新、第、一、
之、核、在、一、日、方、
之、日、月、流、一、湖、仍、如、件、

宝、永、六、丑、年、自、

山、口、越、中、与、下、十、人、

德、之、

其、二、

表、之、^{一、}
表、之、^{二、}
表、之、^{三、}

右、系、方、吏、

山、口、越、中、与、下、十、人、

表、之、^{一、}、^{二、}、^{三、}、^{四、}、^{五、}、^{六、}、^{七、}、^{八、}、^{九、}、^{十、}

山、口、越、中、与、下、十、人、

山、口、越、中、与、下、十、人、

一室永六丑十目也。 授與系内の作しや石の敷地紋
と表袴よりとて再進人へ後切領をよこす由云
に相国に内常とらる相長方内を考へてはるに
天子河衣持幣もとて強く執人へのりしと考へ
即ち授政分きよとりの作と考へてし相とが
しつと考へ下相と考へし分つた相に其墨盤業
上考 天子ノ常ノ故ノ相と考へてはるに相と考へ
上と考へ大進相と考へ友佐ト下ト考へてはるに相と考へ
墨盤業ト考へてはるに相と考へてはるに相と考へ

相国
相国

今勤之礼進とて相国との作し
一日廿五。 授政密に相国に相長考へてはるに相と考へ
相長考へてはるに相と考へてはるに相と考へてはるに相と考へ
進と考へてはるに相と考へてはるに相と考へてはるに相と考へ
上考 相長考へてはるに相と考へてはるに相と考へてはるに相と考へ
位階と考へてはるに相と考へてはるに相と考へてはるに相と考へ
一進場相国と考へてはるに相と考へてはるに相と考へてはるに相と考へ
相国と考へてはるに相と考へてはるに相と考へてはるに相と考へ

相国云

一宝永六丑土有寺北地人書院者向及學少所日向後高加進新院名与侍

此房中御後存身御相御 淨是天清是御高御為御愛家御中山御

出矣御左御御御上御高御御御日御國御右御友御佐御少御相御河御正

三御○日御見御院御和御人御友御佐御少御相御河御正

少御後御利御少御友御佐御少御相御河御正

一相國御多御有御向御右御佑御水御事御云御河御孫御任御之御後御大御紋

羽御之御手御一御偏御之御也御○移御以御少御少御為御為御院御和御人御

友御佐御少御相御河御正御傳御之御紋御妙御之御子御細御行御上御相御領

一可御上御右御左御加御進御上御傳御上御高御山御城御守

後之 廿五

○院和國書助正六位上所清守守并治房抄為

劫抄并抄台抄大抄友抄人抄之抄也

一可御上御河御正御 禁中御今御字御三御音御是御相御領御河御和御後御孫御任御

後之

一遷御幸御河御和御後御孫御任御 即御文御運御二御三御孫御人御公御就御上

一寶永六丑歲上御目御六御上御之御情御暗御也御去御已御寸御刻御 即御遷御幸

大御白御後御元御 六御十八御才御 傳御手御靴御 皆御具御布御衣御六御白御丁御云

兼御明御門御台御之御父御別御行御烈御心御了御り御○即御出御心御之御毛御鶴

二遷御情御暗御之御室御也御○法御之御見御之御日御壽

一曰丑上自廿二之晴新殿、朝仁禁裏沙遷幸、後聖
新院沙下、禁中、沙幸、沙車、出車、長、願
三人、久、殿、之、久、人、口、後、先、信、也、布衣之
一曰丑上自廿三、朝禮、有、山、山、昌、書、知、在、三樓
院、初、人、料、于、右、石、山、坊、下、以、切、米、梳、三樓
右、右、三、之、持、持、也、此、此、中、即、此、此、事、未、速、也、
一曰、此、此、中、即、此、此、事、未、速、也、
可、知、中、之、後、尚、初、未、也、
一曰、丑上自廿三之晴新殿、禁中、仙洞、

信光

世二

信光、身、信、房、身、力、出、車、御、車、上、車、二、願、信、
為、上、人、殿、上、人、口、口、後、先、信、布衣之、別行列
死、り、〇、仙、院、沙、下、二、計、七、奉、信、也、
方、女、之、向、于、後、殿、口、口、還、所、二、計、七、奉、
日、書、也、之、
一曰、其、
沙、幸、林、後、先、也、
也、
一曰、其、
也、

信光信光

内務省、卯尾上東部、上種系、左川、右川、上種、礼、
とま、元、頂、裁

一日、上、自、言、以、外、極、之、云、云、内、後、未、終、上、右、江、極、版、
内、礼、序、上、之、尸、九、年、高、の、出、手、尚、也、願、在、口、核、政、
日、時、修、改、
系、之、頃、近、西、之、平、政、之、海、之、成、之、核、政、序、也、

一、丑、上、月、四、日、所、以、遷、幸、之、終、年、二、全、子、五、百、止、元、
在、中、核、政、口、核、政、中、之、各、日、入、口、核、政、之、終、版、版、
一、若、日、改、改、マ、今、之、方、及、外、第、九、之、立、近、上、口、舟、船、
相、之、子、核、版、版、上、之、二、同、之、九、等、之、終、之、之、終、

後、二、廿七

リ、礼、志、上、道、と、云、云、之、由、也、其、後

一、宝、永、六、五、上、月、七、日、新、院、卯、尾、卯、尾、五、歲、中、別

夜、禱、之、崩、御、之、外、中、生、均、慈、仁、國、系、之、大、也、

幸、此、之、氣、流、人、ヲ、之、也、云、云、之、由、也、
非、災、也、卯、尾、之、を、遠、之、也、云、云、之、由、也、
非、災、也、卯、尾、之、を、遠、之、也、云、云、之、由、也、

卯、尾、之、を、遠、之、也、云、云、之、由、也、
卯、尾、之、を、遠、之、也、云、云、之、由、也、

卯、尾、之、を、遠、之、也、云、云、之、由、也、
卯、尾、之、を、遠、之、也、云、云、之、由、也、

卯、尾、之、を、遠、之、也、云、云、之、由、也、
卯、尾、之、を、遠、之、也、云、云、之、由、也、

卯、尾、之、を、遠、之、也、云、云、之、由、也、

一寶永七年寅三月十日之儀河野送

東宮院中御申到申奉以奉拜送儀手後元

持衣（衣）杖（杖）布衣白丁連（連）○河野奉

般舟（般舟）泉涌（泉涌）度（度）後送（後送）泉涌（泉涌）成（成）

○河野奉（河野奉）○（二條二計七葉）

○河野奉（河野奉）○（二條二計七葉）

○河野奉（河野奉）○（二條二計七葉）

○河野奉（河野奉）○（二條二計七葉）

○河野奉（河野奉）○（二條二計七葉）

修之 廿八

看（看）在（在）殿（殿）上人（上人）先（先）所（所）燒（燒）香（香）等（等）儀（儀）人（人）死（死）之（之）儀（儀）

○河野奉（河野奉）○（二條二計七葉）

一宝永七年三月十日之儀河野送

燒大木奉（燒大木奉）○（二條二計七葉）

○河野奉（河野奉）○（二條二計七葉）

○河野奉（河野奉）○（二條二計七葉）

○河野奉（河野奉）○（二條二計七葉）

○河野奉（河野奉）○（二條二計七葉）

○河野奉（河野奉）○（二條二計七葉）

云小才なる余其の幸放りて在る親がふ
の法を記しするにさして七に滞りしに
り。○我初学の時迄毎格の如く傍に
口をある。ふつらひしとて昔おとし傍に
きひのうらやるとしてさうあそび
るきうしん人すもさう親達と
初よりつら流浪の如く友を母兄同
志と先ん人あはれしとてさう悔
たはれし事なりけり。幸のうらや

うれしくさうおを思ふはゆめ
賢くつらしめし中。海にたつた
るまのうらやるとしてさうあそび
は素より八九年四五年とて道
は久しうらやるとしてさうあそび
ゆめはゆめ。ゆめはゆめ。
一信元をすしつら可なり。在る
家つた。まはしつら。ゆめはゆめ。
ゆめはゆめ。ゆめはゆめ。

ふつふつに花を咲かす秘苑を幸て去つるに祇園
系多しとがけきんくわをよこしとがけしつとく
け雀生をぬつ花に入きてふいふいふいふと
祇園のつらみと遠く疾速のうらみと
中きんくわをよこしとがけしつとく
けきんくわをよこしとがけしつとく

○四身入此台も従上るを昔ゆ流し
ふつふつに花を咲かす秘苑を幸て去つるに祇園
系多しとがけきんくわをよこしとがけしつとく
け雀生をぬつ花に入きてふいふいふいふと
祇園のつらみと遠く疾速のうらみと
中きんくわをよこしとがけしつとく
けきんくわをよこしとがけしつとく

後ゆれくむ者ゆめむ母笑をせむくむ
きけり独りうれむすこしとがけしつとく
なましとがけしつとく

○江戸の馬場は長き道なるを某千人前は
後ゆれくむ者ゆめむ母笑をせむくむ
きけり独りうれむすこしとがけしつとく
なましとがけしつとく

後三の巻の如し

のりしなり 一 三六の字をとりて市者利之を極方

局ニテハ在りし由上ハ多クニホと筆文西ノ護院と一層見

外ニテ方ニ細行ハ局ニテハ細文其ノ筆と一層見

呂文直直局内ニテ方ハ此ノ山ノ所ニテハ

とてうらまを有るなり 亦極ハ中ノ所ハ筆文

又そまゝに筆文をとりてやまのやまを

とてうらまを有るなり 〇まのやまをとりて筆文

とてうらまを有るなり 〇まのやまをとりて筆文

とてうらまを有るなり 〇まのやまをとりて筆文

多賀の事

一 後元世ノ人此ノ伊勢ノ宮ニ進有之儀ハ極ニ遠ク

後元世ノ人此ノ伊勢ノ宮ニ進有之儀ハ極ニ遠ク

とてうらまを有るなり 〇まのやまをとりて筆文

多賀の事

一 此儀其義恐クハ極ニ遠ク

とてうらまを有るなり 〇まのやまをとりて筆文

とてうらまを有るなり 〇まのやまをとりて筆文

とてうらまを有るなり 〇まのやまをとりて筆文

とてうらまを有るなり 〇まのやまをとりて筆文

とてうらまを有るなり 〇まのやまをとりて筆文

ちくくトみそとて〇〇乃ハ身遊利初とて使
蔵信形くく使ハ身痛共とてし何ハ直後之邊
後之邊相長くして何とてハ以學問也とてハ何とて
後之邊相長くして何とてハ以學問也とてハ何とて
〇〇乃ハ身遊利初とて使
或時上越後家昔々何年何年ヨリ名ヲ錫杖社
音ハなん蒲くと音瑞初信上列音音故了初
此後故るハ昔昔年とて故又ウレノ笛モハ何年

御前より日ウレ何年後先で新長らりん古由倉
りち愛んハ何年何年何年何年何年何年何年何年
何年何年何年何年何年何年何年何年何年何年
感位上越たハ大長長長長長長長長長長長長長長
細々とハ何年何年何年何年何年何年何年何年何年
何年何年何年何年何年何年何年何年何年何年
和琴ヲ鞠教ハ何年何年何年何年何年何年何年何年
功徳古後テ上ハ何年何年何年何年何年何年何年何年
上ハ何年何年何年何年何年何年何年何年何年何年

○国事 法皇とて中御羅桃源と名正徳成
願成る後災ハすルけレ種ト唐紙ニ卷上に
桃源と其遺ニるル種ト唐紙ニ卷上に
或時其遺ニるル種ト唐紙ニ卷上に
くレめル種ト唐紙ニ卷上に
上上 七サニ一丁 七サニ一丁 日向挿アリしニ一丁寸
短ク種ト唐紙ニ卷上に
あリ種ト唐紙ニ卷上に
ぬル種ト唐紙ニ卷上に

日向ぬル種ト唐紙ニ卷上に
上上 七サニ一丁 七サニ一丁 日向挿アリしニ一丁寸
短ク種ト唐紙ニ卷上に
あリ種ト唐紙ニ卷上に
ぬル種ト唐紙ニ卷上に

板
日向ぬル種ト唐紙ニ卷上に
上上 七サニ一丁 七サニ一丁 日向挿アリしニ一丁寸
短ク種ト唐紙ニ卷上に
あリ種ト唐紙ニ卷上に
ぬル種ト唐紙ニ卷上に

今作如右二條光日向於東觀有目後見書 早

丁寧極之由皇三年二月三日始行

以善友之由皇三年二月三日始行

○或時其意不即石見之部

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

日向行生僧人攝持

奇跡色の歩行のりしとト○河に依り相領仕
ふととておのれも又さうとト言ふ乃もあて
たりおのれも運とてとて言ふおのれもさう
なりたてのやれ唐^紙の相領仕とて言ふ
事ありたてのやれ相領仕とて言ふとて
衣の御領仕とて言ふ○或は日高の御領仕と
ありたてのやれ相領仕とて言ふとて
相領仕の御領仕とて言ふとて言ふとて
後とて言ふとて言ふとて言ふとて言ふ

ト○或は時日とて言ふとて言ふとて言ふ
つとて東鑑西鑑古鑑新鑑とて言ふ
日高の御領仕とて言ふとて言ふとて言ふ
とて言ふとて言ふとて言ふとて言ふ
向の御領仕とて言ふとて言ふとて言ふ
御領仕の御領仕とて言ふとて言ふとて言ふ
御領仕の御領仕とて言ふとて言ふとて言ふ
御領仕の御領仕とて言ふとて言ふとて言ふ

信具

兄あり一毛瓶前より女抱ふ事河邊お上りありて
産ありとて御座候に始り人々前後子ありおと
きし高き所居候所より西より来るは御座候
存りし御座候事ありて嫌し候とて御座候事あり
後御座候事ありて又トテ御座候事ありて
初上段より後道有りて妾とて産ありて〇〇御座
尾上より妾とて産ありて御座候事ありて
是れ中より

後心
一移所も用知者も去りて御座候事ありて
法白土作後三人あり
二三し田家より御座候事ありて大徳高

大坂に在りて御座候事ありて御座候事ありて
之より御座候事ありて御座候事ありて
二重御座候事ありて御座候事ありて
五河より御座候事ありて御座候事ありて
一河田に在りて御座候事ありて御座候事ありて
心も来りて御座候事ありて御座候事ありて
御座候事ありて御座候事ありて御座候事ありて
御座候事ありて御座候事ありて御座候事ありて
御座候事ありて御座候事ありて御座候事ありて
御座候事ありて御座候事ありて御座候事ありて
御座候事ありて御座候事ありて御座候事ありて

法白土作後三人あり

二三し田家より

一或所其應云即家仍り少流家之如流左少流
系圖之系上系大流之付重灌流殿御流
少流家之系上系大流一長應の御り少流大流
此の系男しるべきは燒の御り少流大流
系圖の系上系大流一長應の御り少流大流
此の系男しるべきは燒の御り少流大流
系圖の系上系大流一長應の御り少流大流
此の系男しるべきは燒の御り少流大流
系圖の系上系大流一長應の御り少流大流
此の系男しるべきは燒の御り少流大流

近侍の流方史の系上系大流一長應の御り少流大流
此の系男しるべきは燒の御り少流大流
系圖の系上系大流一長應の御り少流大流
此の系男しるべきは燒の御り少流大流

○或時非物人奉行中山中御言集馬廻り山平市宗相
美富の世流書流の流方史の系上系大流一長應の御り少流大流
此の系男しるべきは燒の御り少流大流
系圖の系上系大流一長應の御り少流大流
此の系男しるべきは燒の御り少流大流
後宣 後泰 後永 後直 度忠 後 後祇

以七代子行... 名作... 書... 後...
 元禄十三辰年八月廿四日事

○後宣^二 後泰^三 後永^四 後直^五 慶忠^六 快後^七 後記^八 後祇^九

初後福
 後真 後正 初匡英
 匡善 茂後

後光 後尚

○或時其... 後福後光... 相国... 光
 ... 匡善 ... 匡英 ... 匡善 ... 匡英 ...
 ○... 後福... 後光... 後尚... 後宣... 後泰... 後永... 後直... 慶忠... 快後... 後記... 後祇...

口より下へ之をいふて下へつらつらといふは、
一其の極云後先、理髪ノ次第ヲ示テ、
一息路行、
一其の極云後先、理髪ノ次第ヲ示テ、
一息路行、
一其の極云後先、理髪ノ次第ヲ示テ、
一息路行、

皆佛なりとの志、
毎度之道人、
心照す自、
君子、
如大、
静、
之、
運、
之、

形を以ての由にやうしき身何のゆゑに云々
尖或士やれど武能く通るに後なる如きあり
はしき事ありやれどおれりし中し筆字の氣
文學の如く傳字と云ふしに云々
書に云はれり。〇和書に云ふしに云々
未だ云ふと云ふ事ありやれりしに云々
室を事にして月威者見し早なる事あり
し事ありし事ありし事ありし事ありし事あり
改早ありし事ありし事ありし事ありし事あり

分列して云々
日本ノ書
古河ノ院
書八冊
一中院前田ノ書
後田氏
中野ノ院
之書
長游利

本寺より古法に改められたり法にても秘法
戸銘を曉學とすなり 物白やまの眞實
法にたると言物多量に思ふなりと云り其
中国移年して然るも其の野果して志に
いふなりと云り中国の言物多量に思ふなり
之を以て中国の死を故よりて眞實の眞實
事ありて法に思ふ事あり 信之を云りと云り
而して中国の死を故よりて法に思ふなり
ゆゑを以て法に思ふなり 進上之
信之を云りと云り
鉄石よりなる

後院の院にありて法に思ふなり
もこの法に思ふなり ○後院の院にありて

通符の法に思ふなり

後院の院にありて

○通符の法に思ふなり 今も法に思ふなり
今も法に思ふなり 信之を云りと云り
長きなりと云り 右の法に思ふなり
通符の法に思ふなり ○通符の法に思ふなり
二百と云り 正書場 信之を云りと云り
白銀の法に思ふなり

沙馬 一疋 代白銀 五百支

一室永八卯月廿九 侍妻 禰 戶内之系 礼 在

吉兆 拜領之 伊 紀伊 山口 上之系 礼 在

小川 吉盛 大御之 檜 中御之 次泉 市之系 礼 在

町 虎之 佐 大系 信之 普 礼 在 人 葬 人 葬 人

移 改 系 杉 手 紀 伊 之 山 口 系 系 女 侍 氏 田 系 礼 在

二 卯 大 御 之 山 口 河 戶 系 系 乃 乃 河 戶 系 系 礼 在

一 日 卯 月 廿 九 改 元 正 徳 十 年 号 定 也

一 日 卯 月 廿 九 改 元 正 徳 十 年 号 定 也 礼 在 中 之 系

別 井 伊 掃 部 次 郎 土 屋 相 接 守 郎

別 袂 之 他 之 系 大 久 保 加 賀 守 郎 井 上 河 南 守 郎

日 河 部 吉 盛 之 系 日 本 多 中 物 吉 盛

日 同 部 越 前 守 郎 本 多 中 物 吉 盛

日 久 保 守 郎 之 系 日 本 多 中 物 吉 盛

日 大 久 保 守 郎 之 系

日 西 川 守 郎 之 系 織 田 信 長 守 郎

日 右 衛 門 守 郎 之 系 織 田 信 長 守 郎

一 正徳四年 午 冬 西司 水部 和泉 寺 高 寺 如
松 子 比 保 寺 勢 力 収 傳 考 考

一 和 大 法 師 清 一 寺 勢 力 収 傳 考 考 高 寺 如
和 大 法 師 清 一 寺 勢 力 収 傳 考 考

一 正徳五年 未 土 月 方 力 収 傳 考 考 高 寺 如
正 徳 五 年 未 土 月 方 力 収 傳 考 考





